

ともに

Dear our friends.

Dear our partners.

【校訓】
やさしく
かしこく
すこやかに

平成27年5月18日
第7号

天草市立久玉小学校
学校通信
編集代表
校長 本田勝則

経験た、子どもに プラスに変える

これから書くことに
は二つの考えがありま
す。
「子どもを強くする」
ということ、
「子どもの命を守る」
ということ。
です。お読みにな
ったあとで、どうす
るか、家族で、子ども
さんと話し合っていた
だければ、幸いです。

先週、台風接近に伴い、大雨が降りま
した。いろいろな場面を想定しました。
登校時は深夜ほどの強い雨ではなかった
ものの、国道沿いの登校や、道路横断に
は危険がないか、と子どもたちの様子を
見に行きました。
子どもたちは、風に負けないようにし
っかりと傘を持ちながら登校していま
した。
「雨の中、えらいぞ、がんばれ」
その声かけにニコッとほほえむ久玉っ
子。いい笑顔です。
車で送られた家庭も多かったと思いま
す。安全面を考慮されての判断かと思ひ
ました。

でも、ちょっとだけ思ったこと。
子どもたちは、雨の中、靴をびしょび
しょにしながら、不快感を感じながら、
登校するという経験をしなくていいのか
な、ということ。
経験ありませんか？子どものころの雨
の日のいやな感情。
子どもが成長するためには、成長に必
要な適度なストレスもときには必要です。
困らないように、と条件をそろえすぎる
と子どもは成長しません。生きていく力
はつきません。
ここで私の子育ての失敗談を。
どうぞ笑ってください。
二年前、中学校に入学したばかりの我



↑この写真は個人がはき
りしているもので、ホームペ
ジに掲載する際には解像度
の低い写真に差し替えます。

※「目覚まし時計」
四年ほど前に読んだ本に
「まずは自分の力で起きる
子どもに育てる」とありま
した。その通りだと思いま
した。
早速時計屋に目覚まし時
計を買いに行きました。自
分で選べました。
それから、自分で目覚まし
をかけて自分で起きます。
どんなに遅くても自己
責任！

だれの言葉でしょう？

命は始まったときから
ゆっくり終わっていく
なんて信じない
ぼくが生きる今日は
もって生きたかった
だれかの
明日かもしれないから

人生は楽しいものですが、
とても重いものでもありま
す。
それを私たちは子どもた
ちに伝えなければならぬ
使命があります。
私たちの経験した人生の
つらいこと、楽しいこと、
いっぱい話してあげましょ
う。
そして、いっぱい経験さ
せてあげましょ。

大団円

～校長室より～



若かりし頃の失敗談
子どもの育成、
次善の策を考える
教職五年目の頃です。運動場で
研究授業（陸上運動）をすること
となり、準備万端で当日を迎えま
した。ところが、昨日までの晴天
がガラッと変わって、朝から雨で
す。
どうしよう・・・
晴天を信じ切った雨の日の代替案
を考えていなかったのです。
おそろおそろ校長室へ行くと、
「雨を想定して準備をしておくの
は当たり前です。」
と。ビシヤリ。

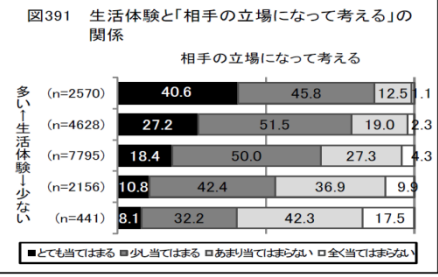
苦い、苦い思い出です。
さて、子どもたちはどうでしょ
う。
「宿題ができなかったから、学校
に行きたくない。」
「〇〇さんに悪口を言われるから
お母さんから先生に言つて。」
保護者の皆様がお聞きになって、
お困りになったこともあるでしょ
う。
子どもなりに考えに考えて、どう
すればよいか迷ったあぐくの発言
でしょう。
保護者の皆様はどのように対応さ
れますか・・・。
まず、時間をかけて、事の経緯

をお聞きいただき、子ども自身で
できる解決方法を一緒に考えてい
ただくとともに、自分で解決に向
けて行動できるよう背中を押して
あげてください。
そして、行動の結果を聞かれた
ら、「よかったね。」とほめてく
ださい。
『楽は苦の種、苦は楽の種』と言
います。
事の軽重を考慮しながら、子ど
もが自分で解決できる行動力を小
さいときから身につけてくださ
さい。
この力は、将来につながる大き
な力です。

今日は本田校長先生が教員になって133195日目
そして、平成28年3月31日は13513日目

なるほど・ザ・家庭教育

「平成24年度青少年の体験活動等に関する実態調査」国立青少年教育振興
機構 平成26年3月発行



生活体験というの
は、包丁を使ったり、
買い物に行ったり、
と日常生活の営みの
ことです。
この生活体験の多
い子は、相手の立場
になって考える割合
が、生活体験の少な
い子の5倍多くな
ります。
あたりまえのこと
で、できずなことを、
どんどんさせていき
ましょ。